

# 第77回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会

準々決勝	仙台市民球場	2 時間 3 分			打安点盗犠四三残失併
石巻工業	0 0 0	0 0 0	2 0 0	2	【石】 40 8 3 2 0 2 5 10 2 0
仙台第一	0 0 0	2 0 0	0 0 0	1	【仙】 30 5 2 0 6 3 1 8 3 1
(延長10回タイブレーク)					
(球) 野田 学 (一) 山館 浩樹 (二) 西城 皇祐 (三) 小松 宗夫					▽本塁打 なし
【石】 遠藤颯	— 早坂				▽三塁打 なし
【仙】 藤田, 及川	— 金子				▽二塁打 なし (石) 千葉 (仙)
▽暴投 なし	▽捕逸 なし				

【評】

延長10回タイブレークを制し、石巻工ベスト4。  
 石巻工の遠藤颯汰、仙台一の藤田拓実両投手の投げ合いで始まったこの試合、先制したのは、仙台一高。4回裏一死1塁から、捕手前犠打の一塁への暴投でまず1点。2死後、7番千葉のセンター前安打で2点目を挙げ、試合を優位に進めた。しかし、追う石巻工も7回裏に相手2つの敵失と1・2番の2安打で同点に追いついた。そして、同点で迎えた延長10回表、相手守備の間を抜くバント安打で作った無死満塁のチャンスに、3番早坂のセンター前安打で2点を挙げ勝ち越した。その裏を石巻工遠藤が1点で抑え、13大会ぶり4回目のベスト4進出を決めた。

準々決勝	石巻市民球場	1 時間 53 分			打安点盗犠四三残失併
古川学園	2 2 0	3 0 2	0	9	【古】 23 9 9 1 6 9 0 8 3 0
石巻西	0 0 0	0 2 0	0	2	【石】 24 3 1 1 1 2 4 4 2 1
( 7回コールド )					
(球) 佐藤 圭 (一) 米谷 正信 (二) 菅原 幸 (三) 佐々木 勝弘					▽本塁打 大柳 (古)
【古】 木谷, 伊藤, 菊地	— 佐藤, 伊藤				▽三塁打 菊地 (古)
【石】 佐々木, 木村心	— 武山琉, 佐藤				▽二塁打 なし (古) なし (石)
▽暴投 なし	▽捕逸 なし				

【評】

古川学園が序盤から着実に加点して試合を優位に進め、2年連続のベスト4進出を決めた。初回、古川学園は無死一塁から、2番大柳のライトスタンドへ飛び込むホームランで先制すると、2回に2点、4回に3点、6回に2点と切れ目のない攻撃を見せた。古川学園は、大柳がこの試合4打点と大活躍し、投手陣は小刻みに3人の継投をして散発3安打に封じた。対する石巻西は、5回表の守備で併殺を奪い流れを引き寄せると、その裏の攻撃で2点を返す粘りを見せたが、及ばずコールドゲームとなった。

準々決勝	石巻市民球場	2 時間 7 分			打安点盗犠四三残失併
東陵	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0	【東】 29 4 0 0 1 3 7 6 0 0
仙台育英	0 0 0	0 0 1	0 1 X	2	【仙】 27 6 2 2 1 6 6 8 0 0
( )					
(球) 三浦 徹 (一) 山下 大輔 (二) 浅野 卓也 (三) 阿部 徳太郎					▽本塁打 川尻 (仙)
【東】 幸	— 地紙				▽三塁打 なし
【仙】 吉川	— 川尻				▽二塁打 なし (東) なし (仙)
▽暴投 なし	▽捕逸 なし				

【評】

息詰まる投手戦を仙台育英が制した。仙台育英は、6回一死後、3番佐々木のレフト前ヒットと4番川尻の四球で一、二塁とし、5番土屋のセンター前ヒットで先取点を挙げた。さらに8回には、4番川尻が左中間スタンドへソロホームランを放ち、2点差と引き離れた。投げては、先発吉川が東陵打線を散発4安打で完封した。東陵はヒットや四球で出塁するも後が続かず、得点を挙げる事ができなかった。

準々決勝	仙台市民球場	2 時間 50 分			打安点盗犠四三残失併
東北学院榴ヶ岡	5 0 0	0 2 0	0 4 2	13	【東】 38 10 13 4 3 8 5 9 2 0
仙台	1 0 0	0 0 0	0 4 0	5	【仙】 36 9 4 2 1 5 4 10 3 0
( 継続試合5回裏から再開 )					
(球) 布田 秀斗 (一) 鶴田 代志昭 (二) 新野 祥平 (三) 水本 怜					▽本塁打 なし
【東】 佐々木健, 近藤, 齊藤	— 佐々木大				▽三塁打 鈴木, 平山, 後藤(東)
【仙】 村上, 水越, 高橋	— 安彦				▽二塁打 平山, 佐々木大 (東) 高橋 (仙)
▽暴投 村上2(仙), 佐々木健1(東)	▽捕逸 なし				

【評】

継続試合として二日間に渡ったベスト4進出へ最後の一枚を決めるこの試合は、相手投手の不安定な立ち上がりを攻め立てて、終始優位に試合を進めた東北学院榴ヶ岡が13対5の大差で仙台高校を下した。東北学院榴ヶ岡は初回、一死から連続四球で出た二人の走者を置いて続く4・5・6番の三連打で4点、さらに野選での1点を加えて一挙に5点を先制。対する仙台もその裏すぐさま1点を返すも、その後はなかなか得点できず、10点差をつけられた8回に意地の4点を返してコールドを免れるのが精一杯で悔しい敗退となった。